



県議会定例会について

9月16日から10月7日までの日程で、県議会定例会が開かれています。県政の課題について活発な議論が行われる大切な場であり、私も県民の皆さまの声を踏まえて真摯に審議に臨んでいます。尚、この広報誌が皆さんのお手元に届く頃には、会期中か、あるいは既に閉会している可能性がありますことをご了承ください（9月21日執筆）。

《補正予算の概要》

（総額49億3,200万円）

8月10日から11日にかけての記録的豪雨・線状降水帯は県下各地に甚大な被害が生じ、4名の尊い命が失われ、現在も1名の安否が不明です。改めてお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた皆さまに心からお見舞い申し上げます。

今回の大雨は、広範囲に均一に降るのではなく、狭い地域に集中して猛烈な雨を降らせ、その「点」で大きな被害をもたらしたことが特徴でした。

こうした新たな災害の様相を踏まえ、県は従来の対策では不十分であることを国に訴え、抜本的な対応を強く要望

しました。その結果、今回の補正予算では災害復旧が大きな柱となっています。

【復旧の主な内容】

○公共土木施設

（道路、橋梁、河川、護岸等）の
復旧費…33億9,900万円

○農林水産業施設の

復旧費…7,100万円
（農地・農業用施設…4,400万円、
林道施設…2,700万円）

また私が注目しているのは
「防災関係システム」
（9,700万円）の改修です。

災害時に発表される防災気象情報は、避難判断に直結する重要な情報ですが、「危険度が分かりにくい」との指摘があり、国も改善を進めています。R8年6月からは新しい仕組みでの提供が始まる予定であり、それに合わせて県のシステムも改修し、より分かりやすく正確な情報を届ける体制を整えていきます。「逃げ遅れ」を防ぐためには情報の伝わりやすさが不可欠であり、命を守る取り組みとして、今後も注視してまいります。



《線状降水帯・ゲリラ豪雨の背景と課題》

このところ、全国各地で線状降水帯やゲリラ豪雨による冠水や内水氾濫が頻発しています。その主な要因は次の3点に整理されます。

① 気候変動の影響

温暖化による海水温の上昇で水蒸気が増え、強い雨雲が発達しやすくなる。

② 都市化による排水不全

地面が舗装され雨水が地面に浸透せず、排水能力を超えやすい。

③ 排水インフラの限界

下水道や排水路が想定以上の雨量に対応できず、内水氾濫が発生。

これらの背景を踏まえると、豪雨や水害は「いつ、どこで発生してもおかしくない」現実があり、また一朝一夕に解決できる問題ではありません。こうした課題に対し、県としては防災情報の改善や排水施設整備を進めています。県の取組みと県民の皆さま一人ひとりの備えを重ね合わせ、安心・安全な地域づくりを着実に進めてまいります。

《球磨地域の視察報告》
経済環境常任委員会

【視察の意義】

9月2日、県議会・経済環境常任委員会で球磨地域の視察を行いました。視察は「物見遊山」と思われがちですが、実際には地域の取り組みや課題を現地で確かめ、今後の県政に活かす重要な機会です。机上の書類や数字では分からない空気や人の声を直接感じられることにも大きな意義があります。

今回の経済環境常任委員会の視察ではスポーツや産業、歴史や観光の現場を訪ね、地域の工夫や努力する姿を学びました。こうして得た生きた学びを県民の暮らしに寄り添う政策に反映、実践することが視察の目的でした。



水上スカイヴィレッジ

① 水上スカイヴィレッジ

標高1,000mに位置する水上スカイヴィレッジは、全天候型グラウンドを備えた本格的なトレーニング施設です。自然豊かな環境を生かし、大学や実業団の合宿先として注目を集めています。

特に青山学院大学陸上部が合宿を行い、ユニフォームに村のロゴを掲出したことは、全国に「水上村」の名を広める大きな契機となりました。さらに著名な指導者の監督により、アップダウンの激しい2キロのコースやアイシングプールなどが整備され、施設は進化を続けています。青山学院大学・原監督をはじめ名指導者との強いパイプと信頼関係、そして町長や職員のひたむきな努力と熱心な活動があったからこそ今日の成果に結びついているのだと感じました。

春から秋は合宿利用が中心となり、冬は陸上競技のメインシーズンとして駅伝大会が開催され球磨地域全体に経済効果をもたらしています。

今後はトップ選手だけでなく、子どもや市民が気軽に利用できる場として活用の幅を広げること、スポーツを核とした村おこしの可能性がさらに広がると感じました。

② ゼンカイミート株式会社

錦町のゼンカイミートは、R2年の豪雨災害で壊滅的な被害を受けたがらも、高台への移転により工場を再建し、営業を再開した力強い企業です。

特に心に残ったのは、再建までの3年余りの間、社員の生活と雇用を守り抜いた姿勢でした。取引先へ足を運び、出向先の受け入れをお願いする一方、社員には出向か休業かを確認し、希望者には希望先を募ったと伺いました。通勤できない社員には会社契約でアパートを借り上げるなど、生活の基盤を支える工夫もされていきました。最も苦労したのは、先が見えない不安を抱える出向社員のモチベーション維持であり、定期

③ にしきひみつ基地ミュージアム

錦町の「にしきひみつ基地ミュージアム」は、太平洋戦争末期に造られた地下施設を活用した資料館で、歴史を体験しながら学べる貴重な場所です。

実際に見学すると当時の緊張感や厳しい環境が伝わり、命の尊さや平和の大切さを改めて考えさせられました。観光資源であると同時に、修学旅行や平和学習の場として多くの子どもたちに活用されており、「過去を知り、未来に生かす」教育的な

的に面談や再建状況の説明を重ね、信頼関係をつないできたそうです。

今後、イスラム教の戒律に基づくハラール認証を再取得し、国内外への供給体制を整えていくとの強い決意も聞きました。災害からの復旧とは「施設を直す」だけでなく「人を支える」営みであることを学びました。今回の視察を通じ、県の補助金制度の意義を改めて確認するとともに、地域産業が持つ底力を実感しました。



ゼンカイミート

役割も担っています。地域の歴史を観光と結びつけ、訪れる人々に学びと気づきを与えている点が印象的でした。

今回の視察を通じて、歴史を後世に語り継ぐことと地域の魅力を発信することを両立させる取り組みの大切さを実感しました。



にしきひみつ基地ミュージアム

高島和男事務所

〒862-0962
熊本市南区田迎 2-17-7

届けます！あなたの思いを県政に
高島和男サポーター募集中です！

TEL.096-288-6004
FAX.096-288-6009

動画を毎月公開しております！
ホームページをぜひご覧ください。

<https://takashima-kazuo.com>

Facebookもやっています！

